

ドクターカー導入 月

大垣市、西濃地域で初 来

大垣市は2月10日から医師や看護師を乗せて救急現場へ出動するドクターカー1台を西濃地域で初めて導入すると発表した。傷病者への迅速な治療を施すことで、救命率の向上を目指す。石田仁市長が5日の年頭記者会見で明かした。

ドクターカーは119番があった際、消防の要請に応じて医療従事者を病院から現場まで運び、現場や救急車内での早期、適切な治療を可能にする。県内では岐阜大病院や中津川市民病院で利用されている。

活動範囲は大垣消防組合管内で、将来的に拡大する予定。救急車との合流地点「ドッキングポイント」につ



大垣市が西濃地域で初めて導入するドクターカー＝同市南畑町、市民病院

つては、公共施設やコンビニエンスストアなど管内55カ所に設置した。石田市長は「市民病院の医師の体制が整いようやく実現した」と経緯を説明し「現場での治療によって救命率が格段に上がる」と期待した。

ほかの取り組みとして、地域医療や介護分野の在り方について協議する検討委員会を新年度から設置する。市内の医師会や介護施設を構成員とし、市内で完結できる医療体制、各機関による役割分担の明確化などを図る。「急性期、慢性期の病院から介護施設までの流れについて議論し、将来構想を考えなければなら

ない」と力を込めた。

最後に今年の言葉として

「共創の実る年」を掲げた。

「取り組みが実を結ぶこと」

「実が種となり次の世代の

持続可能な発展へとつなが

ること」の二つの願いを込

め、「市民の皆さんと共に

歩み、共に創造し、共に成

長していく」と意気込んだ。

(西垣剛大)